

交流だより

令和4年3月10日発行
栃木県立足利特別支援学校

「地域とともに歩む特別支援学校を目指して」 校長 松野 哲也

病弱の特別支援学校である本校は、小学生から高校生まで合わせて43名の児童生徒が学ぶ小さな学校です。開校以来、学校の所在地である毛野地区大沼田の皆様や地元の毛野小学校・毛野中学校、交流校である足利短期大学附属高等学校や県立足利工業高等学校とのつながりを大切にしています。本校では小規模な特別支援学校という特徴を最大限に生かして、児童生徒一人一人を大切に、一人一人に合った教育を考え、その一人一人をどのような姿で社会に送り出すことができるかをイメージしながら日々を重ねています。

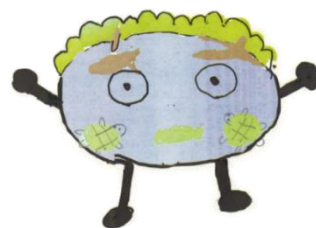
この自然あふれる昔ながらの落ち着いた環境の大沼田の地で、お互いのよさに気づき、自分自身の良さに気づき、共に生きることの楽しさや大切さを感じています。日々の生活とは少し違って、交流の時に見せてくれる子どもたちの緊張した姿や、思ったよりも大人になっている姿に驚かされたりします。人と人とのかけわりのなかで、成長していく姿を見せてくれています。

これからも児童生徒一人一人の夢や希望が叶えられるよう、一日一日を大切に地道に小さな一歩で少しずつ歩んでまいります。そして病弱の特別支援学校としてできること、誰かの何かの役に立つこと、ちからになれること、できることから少しずつ積み重ねていきたいと思います。今後とも保護者の皆様、地域の皆様、関係機関等の方々の温かい御協力、御支援をお願い申し上げます。



令和3年度 交流校・団体一覧

学 部	交流校・団体
小学部	足利市立毛野小学校（学校間交流・居住地校交流） 足利市立坂西北小学校（居住地校交流） 佐野市立植野小学校（居住地校交流）
	足特応援サポーター（地域連携）
中学部	足利市立毛野中学校（学校間交流） 足利市立坂西中学校（居住地校交流）
	足特応援サポーター（地域連携）
高等部	足利短期大学附属高等学校（学校間交流）
	旭幼稚園（地域連携）
	足特応援サポーター（地域連携）
院内学級	足利市立毛野中学校（学校間交流）
	H.C栃木日光アイスボックス（地域連携）



足特公認キャラクター「ぬまゴン」

本校ホームページ QR コード



交流の様子を随時更新しています
どうぞ ごらんください

※今年度の交流活動は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施方法を検討して、直接交流や間接交流(テレビ会議システム・DVD での紹介・手紙の交換等)を行いました。交流校や地域の皆様には、御協力いただきありがとうございました。

小学部 <毛野小学校との交流>

今年度、毛野小学校 6 年生との交流は、間接交流での実施となりました。

交流の事前学習として本校教員が毛野小学校へ訪問し、学校紹介ビデオや写真を使いながら、授業の様子や小学部児童の実態を簡単に説明する出前授業を行いました。その後、本校児童一人一人が、自分の好きなことや得意なことを動画にまとめ、毛野小学校の皆さんに見ていただきました。毛野小学校の皆さんからもビデオレターが届き、お互いの学校生活を知るよい機会となりました。



中学部 <毛野中学校との交流>

毛野中学校との交流を3回計画していましたが、今年度は、1 回の直接交流の実施となりました。

1 2 月は毛野中学校に行き、武道場で風船バレーやクイズなどのレクレーションを行ったり、社会科の授業に参加して、友達から助言をもらいながら教科書を読んだりするなど、緊張しながらも楽しく活動することができました。また、交流学习を通して、同じ中学生がどんな生活を送っているかを知ることができました。



高等部 <足利短期大学附属高等学校との交流>

今年度は、足利短期大学附属高等学校 1 年 4 組の皆さんと、オンラインで交流を実施しました。自己紹介、お互いの学校紹介、質問コーナーという内容で行いました。本校の生徒達にとって、自分達の学校や学習内容、学校生活を他校生徒に伝えることは、初めての経験であり、「どのように説明をしたらわかりやすいか」を工夫しながら発表を準備してきました。質問コーナーでは、休み時間の過ごし方、お弁当のおかずでは何が好きかなどの質問が飛び交い、盛り上がりを見せました。今回はオンラインでの開催となりましたが、交流後のアンケートでは、双方の学校の生徒から「お互いの学校のことを知ることができてよかった」との感想が多く見られ、実りのある交流となりました。



院内学級 <毛野中学校との交流>

昨年度に引き続き、今年度も、毛野中学校1年生との交流は、本校院内学級教員が毛野中学校を訪問して出前授業を行う間接交流となりました。導入として、毛野中1学年主任の吉田先生より「『ダイバーシティ』とは多様性であり『知らない』ことから偏見が生まれる」というお話があり、毛野中学生達の交流への意識が高まったように感じました。本校からは、病気や障害について説明をしたり、院内学級児童生徒の様子や授業風景を動画で見てもらったりしました。その後のアンケートでは、「もっと知りたい」「直接会って交流したい」という積極的な感想が多く見られました。

後日、毛野中の皆さんからビデオレターが届き、間接的ではありましたが、有意義な交流となりました。

毛野中学校の先生方、1年生の皆さん、このような機会を設けていただき、ありがとうございました。



居住地校交流

本校児童生徒が、居住している地域の友達と一緒に学習したり、遊んだりすることを通じて、相互理解を深める活動が「居住地校交流」です。居住地の友達とふれあい、多様な価値観に触れ、また、他校の様子を知ることは、今後の社会生活を考える上でとても大切です。

今年度は、小学部生4名、中学生1名の計5名が授業体験などの直接交流や、オンライン・DVDによる自己紹介などの間接交流で実施することができました。

中学部3年生の生徒1名は、前籍校である足利市立坂西中学校3年4組の美術の授業に参加しました。事前に坂西中の修学旅行先である京都・奈良について調べ、デジタルでしおりの表紙の絵を描いて参加しました。友達の描く「しおりの表紙」を鑑賞しながら学習したり、休み時間に、小学校からの友達と一緒に写真撮影を行ったりするなど、思い出に残る居住地校交流になりました。また、小学部1年生の児童は、生活科の授業に参加し、ボウリングやゲームを通して交流を深めることができました。そして、小学部2年生の児童は、Zoomによるオンライン交流を複数回行い、居住地校児童と一緒に国語や算数、図画工作の授業に参加しました。

本校では居住地校交流を希望する児童生徒が少しずつ増えてきています。お住まいの地域において、特別支援学校に通う子ども達への理解を深めていくという一面もあるため、学校としては、ぜひ多くの児童生徒の皆さんに参加していただきたいと考えています。交流での活動内容については児童生徒本人、保護者の方の考えをお聞きし、事前に両校間で相談して決定します。興味はあるけれど不安もある・・・そんな場合は担任まで御相談ください。



地域連携

<足特応援サポーターとの交流>

3年ぶりの開催となった「足特応援サポーター講座」に、足利市・佐野市在住の10名の方々に参加いただきました。学校の紹介やサポーター活動の講話など熱心に受講され、教材見学やボッチャの体験では、本校職員との会話も弾み和やかな雰囲気で行われました。



新型コロナウイルス感染症の影響で、サポーターの方との交流は10月から行われました。小学部では、読み聞かせや生活科の「昔の遊び」を通して、楽しく活動することができました。中学部・高等部は、主に課外活動に生徒と一緒に参加していただきました。文化部の室内ゲームや運動部の卓球バレーなどを通して、普段関わることのできない方々と交流を深めることができました。学校全体での活動として、毎年恒例の「花いっぱい大沼田」の活動にも参加いただきました。児童生徒達と一緒にビオラとなでしこの苗を植えながら、いろいろな話に花を咲かせていました。



<旭幼稚園との交流>

今年度は、オンラインという形で交流を実施することができました。2年ぶりに旭幼稚園の園児達と交流をするので、とても緊張をしている様子でしたが、徐々に慣れて、最後には本校の生徒、旭幼稚園の園児共に笑顔で交流をする事ができました。オンラインとはいえ、園児達の様子や反応を見る事ができて、高等部生にとって、とても良い機会となりました。



<H.C 栃木日光アイスバックスとの交流>

本校では毎年、栃木県のプロアイスホッケーチーム日光アイスバックスさんと交流を行ってきました。今年度もビデオレターの交換という形で交流を行いました。日光アイスバックスさんからは、選手の素敵なプレーが納められたメッセージ動画が届き、院内学級児童生徒と一緒に視聴して、返信レターを作成しました。

